

色で体が癒される

カラー治療（色彩診断治療）の概略

赤い色（暖色系）は体を温め、青い色（寒色系）は体を冷やすことは、経験的に生活に取り入れられており、知らぬうちに実践していたりするのではないのでしょうか？冬に赤い毛糸のパンツや赤いセーターなど暖色系のものを着用したり、夏には青いシャツや青いトルコ石など寒色系のものを身につけたり。

でも、色のちからで病気や痛みが治ったり癒されたりすることは、まだ広く知られていません。

松山の鍼灸師の加島先生によって、色の布を体に貼ると、体の悪い部分が癒されることが十数年前はじめて発見されました。

なぜ？色で病気が治るのでしょうか？ 痛みがとれるのでしょうか？

我々のカラダは骨や筋肉や血管、神経、各種の臓器で成り立っていますね。

骨が痛めば骨粗しょう症に、胃が痛めば胃炎になります。骨や胃は細胞で出来上がっています。これらの細胞が正しく働いていれば、我々は健康に生活できます。

しかし、これらの細胞が異常な状態になると、胃の痛みや骨の痛みとなって我々を苦しめ、病気の状態にします。

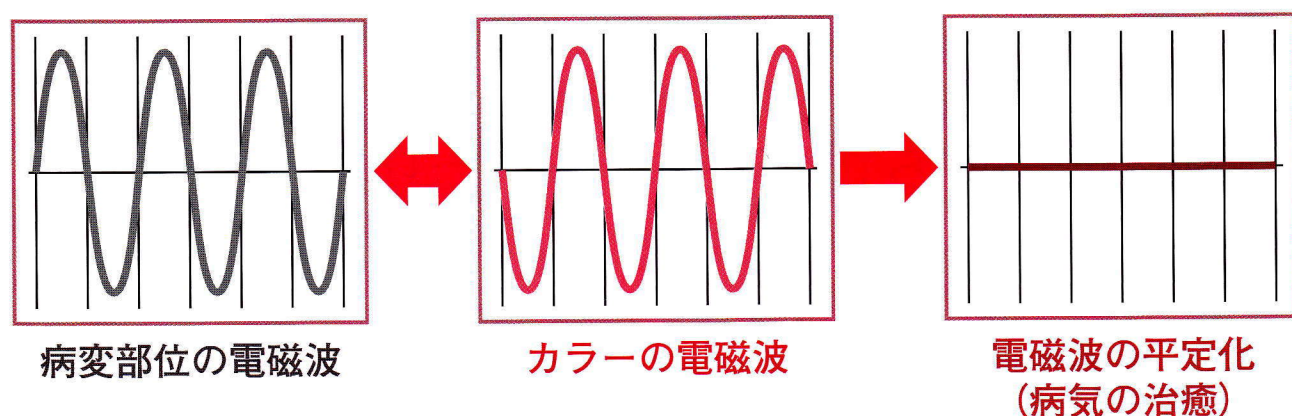
細胞の働き、動き＝電磁波（波長）

ところで、色は波長であり電磁波であり、我々の眼の網膜でそれらの波長が捉えられ色として認識されているのはご存知でしょうか？

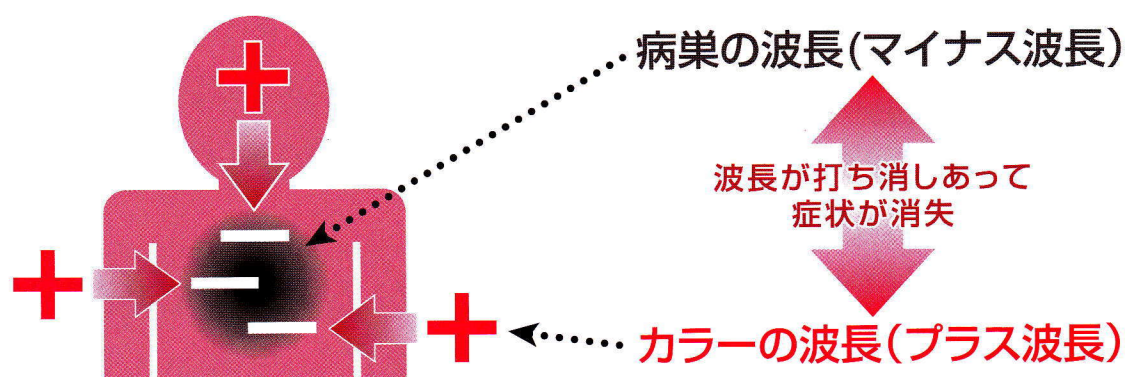
色彩＝電磁波（波長）

カラー治療の原理

障害を受けた細胞から出る波長（電磁波）に対して、それと同じ波長をもった色（電磁波）をカラダの必要な部分に貼付することにより、色の波長（電磁波）が病気の波長を打ち消して細胞や組織を正常化させていくのが、この治療の基本的な原理なのです。



病変部位の電磁波（周波数）を対になる電磁波（カラー）で打ち消すことで正常な状態（波長の平定化）に戻すことができると考えられます。（波長の逆位相による作用）



病巣の波長に対して、カラーの波長が逆位相に働いて病気の波動を打ち消し、病気の治癒を促進させるのです。

それにより、痛みが瞬時に無くなったり、病気が改善に向かうのです。カラー治療は痛みを取ったり、症状を緩和させるだけの対症療法ではなく、細胞や臓器に直接働きかけて治癒を促進させると考えられます。